

こえに だして よみましょう。

飴あめだま ①

新美南吉 にいみなんきち

春はるのあたたかい日ひのこと、わたし舟ふねにふ

たりの小さな子こどもをつれた女おんなの旅人たびびと

がのりました。

舟ふねが出でようとすると、

「おおい、ちよっとまってくれ。」

と、どての向むこうから手てをふりながら、さ

むらいがひとり走はしってきて、舟ふねにとびこみました。

舟ふねは出でました。

さむらいは舟ふねのまん中なかにどっかりすわっていまし

た。ほかほかあたたかいので、そのうちにいねむりを  
はじめました。

